

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072700723		
法人名	社会福祉法人協立福祉会		
事業所名	高齢者グループホームなのはな		
所在地	長野県東筑摩郡山形村2526-1		
自己評価作成日	平成28年1月24日	評価結果市町村受理日	平成28年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成28年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、家族、職員、関わる全ての方がたへ安心、安全をお届けします。をうたい、あきらめない介護の実践に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所建物内に訪問看護ステーションがあり、協力医である診療所が隣接している。いつでも安心して医療が受けられる環境にある。母体法人ではグループホーム3事業所を運営しており各事業所の管理者会議、法人各事業所代表者会議が定期的に開催され、サービス向上に向けての情報・意見交換、職員の意見要望が反映される仕組みがある。事例をまとめ検討会をする、外部研修会に参加する等認知症の専門的知識、理解を深めるための取組みを積極的にしている。介護計画作成時に家族が出席して行うサービス担当者会議、家族会の実施などで家族との関係作りが出来ている。介護計画を活かす取組みを介護支援専門員は職員と連携して行い成果を上げている。一人ひとりのニーズを把握して個別の食事、外出支援がなされている。木の香りが漂い清潔で居心地の良い生活となっている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「あきらめない介護」「笑顔のある生活」の実践に取り組み安心、安全な生活が送れる様全職員、取り組んでいる。</p>	<p>事業所、グループホーム3事業所の理念を玄関、事務室に掲示している。職員入職時に説明している。</p>	<p>理念は事業所がめざすサービスのあり方を示したもので、常に立ち戻る根本的な考え方なので管理者職員は共有し、意識していくために日々話し合い実践に繋げるための目標作り等されていくことを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>保育園交流、中学職業体験受け入れ、ボランティアの受け入れ等交流に努めている。</p>	<p>保育園児が来所して交流、民生委員による窓ふき、楽器演奏のボランティアの受入をしている。近所への散歩時には近所の方と話や挨拶を交わしている。事業所は地域の一員として暮らせるよう努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居申し込み時家人の話をよく傾聴しアドバイスを行っている。 地域会議での事例検討の話し合いに参加。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事故報告はもちろん、年2回の地域運営推進会議を実施し報告、連絡。アドバイスをもらっている。</p>	<p>平成26年度は2回、平成27年度は9月家族会を兼ねた運営推進会議を開き行事、利用者状況、事故報告を行った。</p>	<p>運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容、具体的な改善課題を報告にとどまらず会議メンバーから率直な意見をもらいサービス向上に活かしていく事が目的。行政、地域関係者、利用者・家族、職員で構成して2ヶ月毎の開催を目指すこと、会議資料、会議録を欠席の方に配布、閲覧できる取組みなど実施されることが必要と思われる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告はもちろん、入居希望、空き状況等情報交換を行っている。	地域会議(行政が主催、年4回開催)の参加を毎回している。利用者の入居に関する相談を主にしている。議員視察の受入を行った。	利用者状況、運営推進会議の開催、防災に関する地域との関係作り等事業所の課題や実情を報告して更に協力関係を双方で築いていけることを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に対し全員知識を持って取り組んでいる。	資料を使い身体拘束をしないケアについて職員会議で学習している。目的を解り易く説明して禁止、命令口調にならないよう工夫している。言葉による拘束をしないよう管理者、職員は注意し合っている。やむなくセンサーマット使用時には家族に説明をして理解を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待には細心の注意をはらっている。気づいた時は指摘し虐待防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるも、参加に至っておらず。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の都度、面会時、又は電話連絡にておこなっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時に日々の様子を伝え要望、意見をもらっている。出された意見、要望は全職員に周知徹底させている。	年数回のサービス担当者会議、家族会に出席して意見要望を伝える機会がある。面会時は生活の様子を伝えながら話を聞くよう努めている。意見要望は職員で周知して反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見提案はよく出される。職代会等をとおり、上へ報告をしている。	毎月の職員会、朝の申し送りに意見、提案が出される。内容により法人全体の職場代表者会議に出し意見提案が反映されるようにしている。管理者による面接が年2回行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回の職員面談を実施し意見要望を聞き取り、個々に役割をもたせ責任を持って業務にあたれる様、配慮に努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、学習会参加は積極的に勧め、事例学習では指導を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者内での交流をとおり向上をはかり、診療所との交流においては医療面での学習に繋がっている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、会話する時間を多く設け、顔、声を覚えてもらえ関係作りを徐々にすすめていくようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問を行い家族、本人の要望を聞き取り入居後の取り組みを話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りにより、いろいろな提案を行い、思いを受け入れる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を重視し、職員の手助けも行えるよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスで意見交換を行い共に考えていける様支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	発する言葉から思いをくみ取り可能な限り支援し、必要に応じ家人に連絡し協力を仰いでいる。	入居前に訪問して馴染みの関係は本人家族、関係者から把握するようにしている。馴染みの美容院、墓参り、食堂などは家族の協力で出掛ける。大切にしてきた畑の草取り仕事が継続できるよう支援をしている方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有できる時間を多く持つよう環境作りに努力している。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行えておらず。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との話の中で希望、意向の把握に努めている。週1回は必ず聞き取りを実施、普段の会話の中からも思いを把握し、方向性を考えている。	毎月のモニタリングをする時、午後のおやつに時間を掛けゆったりとしている時間に思いや意向の把握をするよう努めている。把握された内容は記録し、職員で話し合い必要に応じて家族に連絡したり、介護計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりに合った環境づくりに努力し、落ち着いた様努力している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間のコミュニケーションを良くし、心身状態の把握の周知徹底に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて家族、Nsと話し合い、意見交換を行い介護計画に反映させている。	4ヶ月毎に見直し、家族、訪問看護師、職員の出席でサービス担当者会議を実施、毎日計画に基づいた支援経過記録がされ、毎月評価、モニタリングを担当職員がしている。4ヶ月毎まとめ介護支援専門員から家族に報告され介護計画に反映出来る取り組みをしている。体調等の変化に伴い随時見直しをして現状に相応しい計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、月1回の部会での意見交換にて見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、その都度話し合い対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、外食、ドライブ等可能な限り支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、年2回の歯科往診の他、必要に応じて他の医療機関へ受診している。	入居時確認をしているが、協力医がかかりつけ医となっている。専門医受診は継続している。通院は家族、家族が遠方の方は職員がしている。往診は月2回、訪問看護師は週1回となっている。常時訪問看護師による健康状態が把握され相談、呼び出しが出来る状況にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問看護の他、診療所看護師との連携、24時間365日体制の訪問看護の契約を結んでいる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>診療所を通し病院との連携を取っている。入退院時には情報交換を必ず行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のありかたの聞き取りは全家族と話し合い済。しかし、再確認の必要性はある。看取りを行う事に関してはDr、Nsとの協力体制は整っている。</p>	<p>重度化やターミナル期に入った時は、かかりつけ医、訪問看護師、職員で事業所の対応について説明、話し合いをする。事業所での看取りを希望された時は「看取りに関する指針」の内容の確認をして同意書を頂きチームで支援に取り組んでいる。複数新入職員が入り学習会を近日中に予定してターミナル期の支援体制を構築していくことを伺った。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時マニュアルにのっとり対応するが、新人職員への教育がまだ不十分である。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年1回の消防署との訓練を実施し指導を受けている。近隣住民の方とは顔見知りであるが公に協力を仰いだ事はなく、地区の会議への参加が課題である。</p>	<p>防火管理者は職員になっている。通報装置のある事務室に緊急時、災害時の対応に関する手順、電話番号等掲示している。26年度は夜間想定訓練を実施、今年度は諸事情により実施されていない。災害に備えて介護用品、カセットコンロの用意はある。</p>	<p>火災、水害、地震、大雪、台風による災害は昼夜を問わず発生する可能性があるため災害を想定した実践的な利用者避難はじめ諸訓練、教育を年間を通して必要と思われる。早急に新入職員はじめ職員は災害時の対応に関してマニュアルを熟知し実践に繋ぐ訓練、教育をされる事、地域住民、消防署、消防団、警察署等の連携を図りながら話し合いを持ち具体的に支援体制の整備、備蓄品の確保等の取組みをされることを期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助、言葉かけ、態度等、当たり前の事は全職員おこなえている。しかし、認知症との関わりの中で尊厳を無視する事柄があるのではないかと不安な時もある。学習の必要性を感じている。	人格を尊重した言葉かけに注意している。言葉掛けから行動に移すことが困難な方に対して尊厳を守って支援するための学習が今後必要がある事を伺った。記録物は事務室に保管され、記録時も配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけの工夫で自己決定を促せる努力を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のルールは大切にしているが、一人ひとりの身体状況を確認し本人のペースに合わせた支援を実践している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、整髪、更衣の援助、好みの物を家族に連絡し協力を仰ぎ支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2～3回の外出、献立の希望の聞き取りを行い希望に添える様支援している。ADL低下に伴い職員と共に行動は出来なくなっている。	献立は希望を聞いている。食材は注文販売を利用しているが、週に1回利用者と一緒に買物に出掛けている。調理の下準備、片付け、野沢菜漬など職員と一緒に出来る方はしている。誕生日の希望食、好きなものを食べに食堂に出掛けている。重度化された方は家族と話し合い希望に添いながら経口摂取が出来るよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事の提供が実践できている。体調不良の時などNsの指示をあおいでいる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず実践している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しケアに努めている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して失禁を少なくするよう誘導をしている。バルーンカテーテルの方でも排便はトイレで出来るよう排便コントロールをして失禁をなくすようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄はしっかりケアを行っており、整腸剤の調整もその都度、形状に添って行っている。全職員排泄には細かな注意を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるがその日の体調で臨機応変に対応し、出来る限り本人の意思を尊重する様努力している。	入浴時間、曜日を決めているが希望も聞いている。入浴を拒否される方には言葉かけを工夫するなどして本人の気持ちに添えるようにしている。一般入浴困難な方3名はリフト浴を試験的に導入している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	独歩の方は自由にされている。介助が必要な方は身体状況をみながら職員で判断し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p><b>服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効能等、勉強不足の職員もいるが、内服ある無し、手順、誤薬しない為の確認はしっかり出来ている。内服に変更がある都度、全職員に周知徹底を行っている。</p>		
48		<p><b>役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>役割分担は無理の無いよう、気分の乗らない日は無理強いしないようにし、1日1回は笑える様レク、会話等心掛けている。</p>		
49	(18)	<p><b>日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候の良い日は極力戸外へ行かれる様努力しているが、ADL低下に伴い散歩が困難になっている。車での外出はできる限り行っている。但し、休日職員の手助けが不可欠の状況である。</p>	<p>寝たきりの方は庭で外気浴、散歩は希望に添いながら目的地を変える等して一人ひとりに添いながら支援している。家族の協力を得ながら外出、外泊をしている。春、秋の外出行事、飛行場見学等の希望外出は職員の体制を整えて実施している。</p>	
50		<p><b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭所持は行っていない。</p>		
51		<p><b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に合わせて行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節にあわせ装飾の工夫をおこない、自由に過ごせるよう自席以外にもソファ・ベンチを設置。空調管理・音量・照明等、気をつけている。	建物中央部の屋根付きウッドデッキは物干し場、物置となっている。職員は快適な空間となるように照明の点滅、室温度計を見ながら管理している。季節毎のはり絵、行事写真を飾り楽しめる廊下をしている。ホールに飾る装飾品は利用者と一緒に作っている。トイレにハーブを入れ芳香剤にしている。木の温もりが感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルーム、ソファ・窓際等自由に過ごせる様環境に気をつけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって不具合なもの以外は持ち込み自由である。居室の環境整備も担当職員が責任をもって行っている。	床はフローリング、一部畳の部屋があるがベット使用のため敷物を敷いている。レンタルのベット、寝具は好みのものを使用している。衣装ケース、筆筒、椅子等置かれている。日々清掃はしているが週1回清掃業者が入っている。室温度計が最近取り付けられ居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の位置をむやみに変更したりせず、動線上に危険がないか環境整備に心掛け安全をはかっている。		

## 目標達成計画

作成日: 平成28年3月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議開催については相談したが、頻回となると現状では難しいとの意見をもらっている。しかし、改善は必要であるため、こちらからのアプローチを考えていく。	地域運営推進会議の開催を二か月に一回を目標とする。	現在年二回の開催。行政と再検討し、少なくとも三か月に一回は行える様働きかけていく。	12ヶ月
2	35	災害時の訓練として、年一回の避難訓練のみ。非常口の段差を消防署から指摘を受けている。災害時の備蓄品が不十分である。	年二回の訓練の開催と新入職員への災害、緊急時の対応指導を行っていく。非常口の段差については管理と調整していく。	年一回は消防署立ち合いによる避難訓練、一回はスタッフのみでの訓練を開催していき、新入職員においては、オリエンテーション時に指導する。	12ヶ月
3	1	理念確認は入職時に指導を行うのみで、全員での見直しがなされていない。	年一回、個々にアンケートをとり、理念の見直しを行うと共に、自己目標をつくり目標を持って業務遂行を行っていく。	3月部会にて現理念の振り返り意見交換実施。アンケート調査を3月末までとし、個々の目標を集約。4月の部会にて確認。個々の目標を元に5月に職場目標をたて全員で取り組む。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。  
目標達成計画